

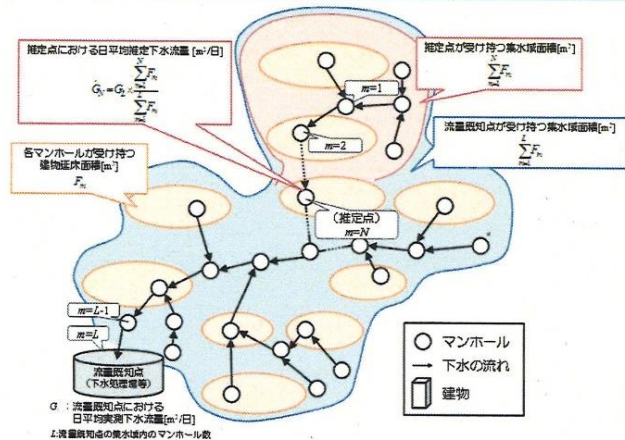
下水熱ポテンシャルマップ作成について

- 下水熱ポテンシャルマップの作成について
- 下水熱ポテンシャルマップ 事例
- 流域幹線の業種別事業所位置図 事例

下水熱ポテンシャルマップの作成について

【作成手順】

- ①建物とマンホールの接続
- ②各マンホールが受け持つ建物の延床面積の集計
- ③各マンホールにおける下水流量を下水処理場等の既知流量から建物床面接案分で推計・ポテンシャルの計算



【広域ポテンシャルの例】

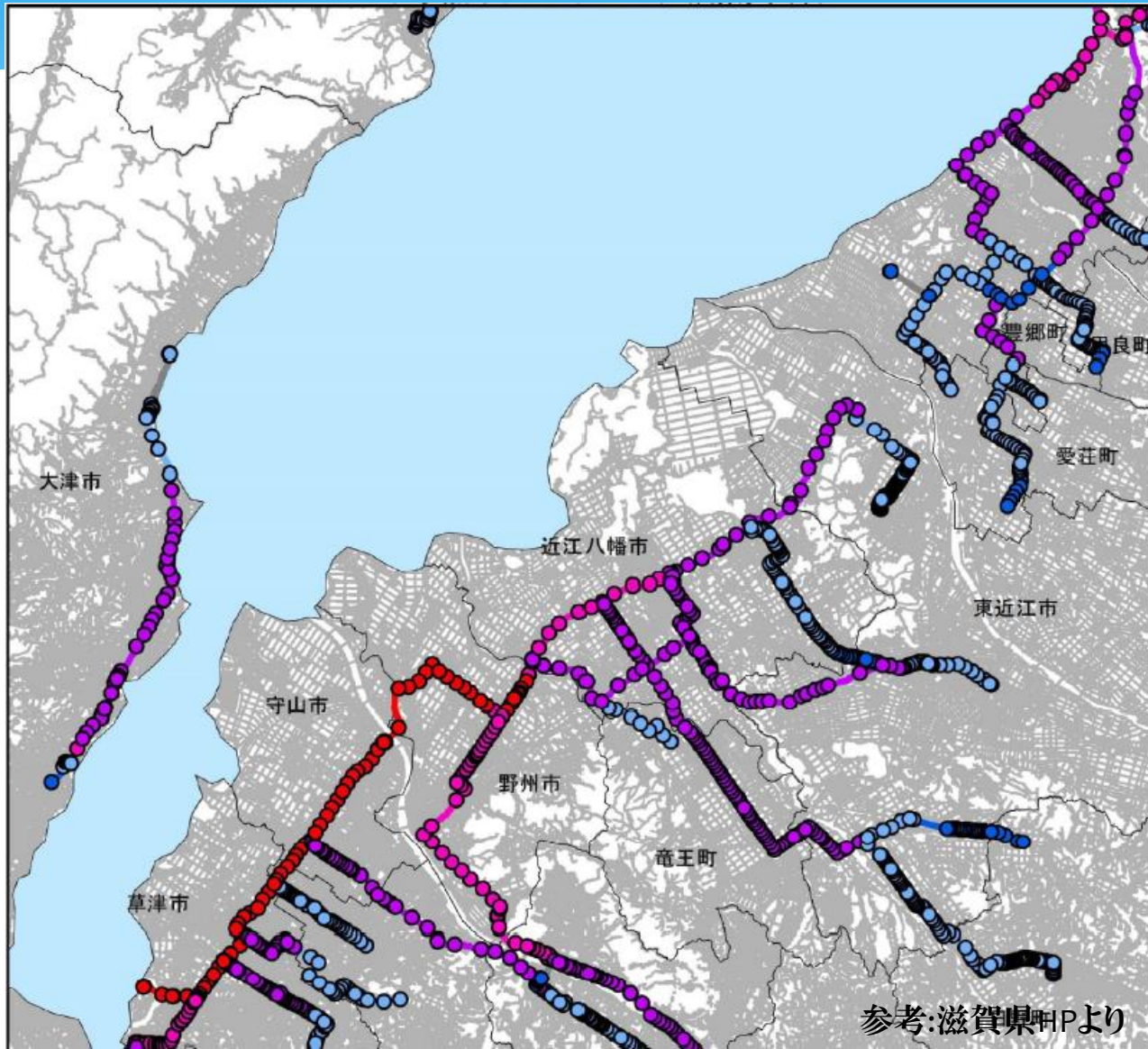
下水熱ポテンシャル		住宅給湯負荷相当の世帯数目安	
No	下水熱ポテンシャル	()
500 ~	1,000 [MJ/日]	14 ~	29
1,000 ~	10,000 [MJ/日]	29 ~	290
10,000 ~	100,000 [MJ/日]	290 ~	2,906
100,000 ~	1,000,000 [MJ/日]	2,906 ~	29,065
1,000,000 ~	10,000,000 [MJ/日]	29,065 ~	290,651
10,000,000 ~	100,000,000 [MJ/日]	290,651 ~	2,906,513
100,000,000 ~	1,000,000,000 [MJ/日]	2,906,513 ~	29,065,137

※23年度版 夏期のポテンシャル
 ※ポテンシャルは各地点で下水流量の全量を温度差5℃で熱利用した場合の推定値である。
 ※集合住宅の給湯熱負荷原単位 (空床学舎) 126 [MJ/年]
 住宅1世帯の延べ床面積を100m²と想定。

ポテンシャルを給湯提供可能戸数ベースで提示



下水熱ポテンシャルマップ 事例



流域幹線の業種別事業所位置図 事例

